

令和6年度 外部評価シート

施設名	姫路港網干沖小型船舶係留施設	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	(株)ヤマハ藤田	選定方法	公募

1 評価項目ごとの評価(対象期間:令和3年～6年)

評価項目	評価
維持管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・R6.8月実施のアンケート調査によると、「やや不満」及び「大変不満」を除く割合(「普通」以上)について、清掃状況が89.0%、施設の点検・保守状況が88.1%と、R2の同調査時点を上回り、概ね高い評価を得ている。 ・一方で、トイレの夜間照明の故障に係る指摘を受けている。 ・トイレをはじめ施設の清掃について、事業計画ベースを上回る頻度で実施(毎日実施)するなど、施設の快適性の向上に取り組んでいる。
運営業務	<ul style="list-style-type: none"> ・営業時間について、事業計画上は繁忙期(5～9月)の9:00～19:00と通常期(10～4月)の9:00～17:00を区別していたが、通年で繁忙期の対応を実施するとともに、指定管理者・本社との事務処理連携により受付業務対応窓口を広げ、利用者の利便性を向上させる取り組みを行っている。 ・R6.8月実施のアンケート調査によると、「やや不満」及び「大変不満」を除く割合(「普通」以上)について、日常の対応が92.7%、要望・苦情への対応が89.0%、事故・台風など緊急時の対応が89.9%、情報提供が91.7%、講習会等の利用者サービスが90.8%と、R2の同調査時点を上回り、概ね高い評価を得ており、適切な運営がなされている。
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化に伴い、プレジャーボート艇数は全国的に減少傾向にあるが、施設のPRを図ることにより、艇置隻数の維持に努めている。 [R3末:197隻 R4末:188隻 R5末:197隻] ・イベント(釣り大会)や講習会の開催などの利便性を高めるサービスの提供による利用者の開拓と定着化を図り、安定的な艇置数確保に努めている。
収支状況	<ul style="list-style-type: none"> ・プレジャーボート艇数が全国的に減少傾向にある中、艇置隻数の維持に努めることにより利用料収入の減少を食い止めるとともに、自助努力による経費節減にも努め、協定で定めた県への還付金を確実に支払っている。
運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情受付を複数の窓口にて設け、苦情対応に真摯に取り組んでいる。 ・台風・高潮等の予測可能な災害に対し、前日に係留ロープを確認し、増し舳れを取るなど危機管理対応に努めている。 ・地元漁協や自治体、海上保安庁等の関係機関との連携が積極的に取られている。

2 残りの指定期間における改善点

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートの項目ごとの評価を踏まえると、指定管理者は、民間のノウハウや組織の柔軟性を活かした管理運営、利用者ニーズに即した講習会の開催などにより、総じて、利用者の満足度が高い。 ・一方で施設の不具合箇所については、利用者と調整のうえ、種々、適切な対応を講じられたい。
--

3 次期公募に向けた検討課題等

<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化に伴い、プレジャーボート艇数は全国的に減少傾向にある中、利用率が34.4%(R6. 3末)にとどまっており、利用者の新規開拓と定着化が課題となっている。 ・事業者には、利用者への安全に関する情報提供や講習会の開催など、利用者サービスの向上についても積極的に取り組んでいただきたい。

(参考)姫路港網干沖小型船舶係留施設・指定管理者候補者選定委員会委員

氏名	主な役職	備考
澁 真輝	神戸大学大学院海事科学研究科 准教授	
廣野 康平	神戸大学大学院海事科学研究科 准教授	
永井 英範	一般社団法人日本海洋レジャー安全・振興協会近畿事務所 主幹	
宇田 名保美	ADU株式会社 代表取締役社長	
宇野 文章	兵庫県土木部次長	